

探究学習 海外フィールドワーク 2019 オーストラリアコース

茨城県立土浦第一高等学校

- 1 目的 (1) 現地大学と連携したフィールドワーク、講演、文化交流、現地高校と連携したアカデミックワークショップ、文化交流、現地企業と連携したフィールドワーク等により、生徒の課題研究の進展及び国際意識の向上を図る。
(2) 将来、国際的に働いたり、グローバルビジネスの起業を考えたりする際に不可欠な人的ネットワーク構築術を身につける。
- 2 日程 令和元年(2019) 8月 13 日(火)～20 日(火)
- 3 方面 オーストラリアニューサウスウェールズ州リズモア市
- 4 参加者 2年生 13 名 引率2名 添乗員1名

5 選定理由 【オーストラリアを選定する理由】

(1) 交流の優位性

時差がほとんどなくテレビ会議システムでの交流に支障がないこと、歴史的経緯から親日的な国民性であること、在留邦人が多く交流の手助けとなることなどにより、生徒間交流に適している。

(2) 地域的な利点

日本とオーストラリアの自然環境は大きく異なり、人々の生活や文化にも異なる点が多い。そのような違いを生徒が認識することは、多様性を受け入れる際の大きなきっかけになると考える。

【サザンクロス大学を受入先とする高大連携の理由】

(1) 生物資源的価値

サザンクロス大学リズモアキャンパスがあるニューサウスウェールズ州リズモア市は、周辺に広大な国立自然公園があり、有袋類など多くの生物固有種に恵まれる。また気候や地形、生物などの自然環境も日本と異なる点が多いため、比較検討するのに利点がある。

(2) 地政学的意義

日本との時差がなく、事前事後に実施する生徒同士のテレビ会議等によるコミュニケーションがとれる。また外務省海外安全情報による危険情報発令がなく、テロ活動等の危険性が相対的に低い。さらに、ヨーロッパやアジアからの移民を受け入れてきた多民族国家のためグローバルの縮図を体験できる。経済面では、日本と同じ先進国であり成熟市場のため、日本のビジネスモデルを考える際に比較検証に好都合である。

(3) 筑波大学との連携

サザンクロス大学リズモアキャンパスの副学長は、昨年度までタスマニア大学に勤務し、本校とはSGH推進事業の中で交流を行ってきた。筑波大学とは、海外留学等の関係で連携をしており、本校とも今後も長期の交流継続が可能である。

6 行程の詳細、生徒感想、写真

日次	月日(曜)	地 名	現地時間	交通機関	行 程	食 事
1	8月13日 (火)	東京(羽田)発	22:00頃	QF26便	空路 シドニーへ ＜機内泊＞	夕: 機内
2	8月14日 (水)	シドニー 着 シドニー 発 ブリスベン 着 リスモア 着	8:30頃 11:00頃 12:30頃 17:30頃	QF520便 専用車	乗り継ぎ 入国 昼食(途中のファストフード店) 企業訪問(ポウケット食肉牛ファームまたは ミシュラー有機野菜ファーム) ＜ホームステイ泊※学校様の手配＞	朝: 機内 昼: 各自 夕: ホスト宅
3	8月15日 (木)	サザンクロス大学登校 リスモア市中心部	09:00頃 16:00頃	ホストファミ リーの送迎 ホストファミ リーの送迎	大学訪問 午前/Peter教授の講義 プレゼンテーション① (テーマ設定の助機と狙い) 午後/市内フィールドワーク 帰宅 ＜ホームステイ泊※学校様の手配＞	朝: ホスト宅 昼: 各自 夕: ホスト宅
4	8月16日 (金)	サザンクロス大学登校	09:00頃 16:00頃	ホストファミ リーの送迎 ホストファミ リーの送迎	大学訪問 午前/日本人留学生のプレゼン 研究室訪問 午後/高校訪問 現地高校生と交流 帰宅 ＜ホームステイ泊※学校様の手配＞	朝: ホスト宅 昼: 各自 夕: ホスト宅
5	8月17日 (土)	リスモア	終 日		ホストファミリーと1日過ごす 各研究テーマに関する調査を必ず行う。 調査後はプレゼンテーションの準備も行う ＜ホームステイ泊※学校様の手配＞	朝: ホスト宅 昼: ホスト宅 夕: ホスト宅
6	8月18日 (日)	リスモア	終 日		ホストファミリーと1日過ごす 課題研究調査予備日 プレゼンテーション準備 ＜ホームステイ泊※学校様の手配＞	朝: ホスト宅 昼: ホスト宅 夕: ホスト宅
7	8月19日 (月)	サザンクロス大学登校 サザンクロス大学登校 ブリスベン 着	09:00頃 11:30頃 16:00頃	ホストファミ リーの送迎 専用車	大学訪問 午前/プレゼンテーション② (課題研究調査発表) 昼食(途中のファストフード店) ホテルにチェックイン ＜ホテル泊＞	朝: ホスト宅 昼: 各自 夕: 各自
8	8月20日 (火)	ホ テ ル ブリスベン国際空港着 ブリスベン国際空港発 東京(成田)着	6:30頃 7:00頃 9:35頃 17:55頃	専用車 QF61便	出国 入国、通関後解散	朝: 各自 昼: 機内



羽田空港で出発式



出国前に集合写真

【2 日目】8/14 ・企業訪問(肉牛牧場) ・リズモア 17:30 着

8:30 にシドニー国際空港に到着後、国内線に乗り継いで 12:30 にブリスベン空港に到着した。専用車に乗車し、途中、高速道路に併設したファーストフード店でランチをとり、Byron Bay 近くの大規模な肉牛ファームでの研修を行った。ファームでは、経営者からの説明とともに、現地ガイドの Atsuko Taylor 様による日本語での補足説明を受けた。慢性的な水不足にともなうオーストラリアの牧場経営の難しさを実感できる説明であった。1 時間あまりの研修の後、リズモアに向かい、17:45 にサザンクロス大学でホストファミリーとミートし、生徒たちは各ホストファミリーに引き取られていった。

〔生徒感想〕

- ・飛行機の中では時間の感覚もなく、乾燥もしていたので、よく眠れなかった。CA さんの英語があまり聞き取れず 明日からの不安が強まった。
- ・飛行機の長旅を終え、オーストラリアの地に着いた時は興奮した。
- ・牧場経営の難しさについて知りました。オーストラリアは雨が降らずに、牛の水分が足りなくて牛が死んでしまう一方で、洪水で牛が溺れて死んでしまうこともあるというのを聞いて、本当に難しいなと思いました。またピーターさんが我が子のように牛を育てていることに感銘を受けました。
- ・牧場での説明は半分以上聞き取れなかった。自分の知らない単語が多かった。空気はとてもきれいだった。
- ・オーストラリアは牛の飼育が盛んなため育てやすい環境がそろっているのだと思っていたが、天候や水不足などのいろいろな問題があることに驚いた。
- ・牧場での話がなかなか聞き取れず英語力のなさを改めて自覚した。
- ・ホストファミリーの人たちはとても親切で、気さくに話してくれたので安心した。
- ・お土産の反応がよくて安心した。ワンピースを知っていて、有名なんだなって実感した。部屋は暖房がなくて寒い。
- ・ホストファミリーと出会うのが一番不安だったが、二人(+2匹)とも暖かく迎えてくれた。量が多かったが、夜ご飯もおいしかった。日本のおみやげ、特にオリンピックのタオルが喜んでもらえてよかった。



ファーストフード店でのランチ



ファームの経営者からの説明



みんなで集合写真



広大な肉牛ファーム



ホストファミリーとミート



【3日目】8/15 ・サザンクロス大学副学長 Peter 教授によるレクチャー

・現地高校(St John`s College Woodlawn High School)訪問

・サザンクロス大学コアラ保護センター見学

8:30 にサザンクロス大学に集合し、最初に、ピーター教授による極地研究、冷凍保存に関する研究のレクチャーをしていただいた。10:30 に高校訪問に向かうバスに乗り、約 20 分程度離れた St John`s College Woodlawn High School に訪問した。Period3 では、化学、美術、法学の授業に参加し、Period4 では本校の学校紹介プレゼン、パフォーマンスとして福笑いゲーム、LGBT に関する研究テーマのプレゼンを行った。終了後、ランチをご用意

意いただき、生徒会の生徒たちと会食後、高校内を散策し、現地校生徒との集合写真を撮って高校をあとにした。その後、サザンクロス大学に戻り、併設されたコアラ保護センターを見学した。16:00、ホストファミリーによる pick up。

〔生徒感想〕

- ピーター先生のお話は専門的なテーマだったこともあり、かなり聞き取りにくかった。
- ピーター先生に興味深いお話をうかがうことができて楽しかった。
- 高校生が私と同じ年だと思えないほどしっかりしていて、優しくて、特に生徒会長が本当にすばらしい人で、私もこんな風になれたらいいなと思いました。
- 高校訪問で出会った生徒たちは、何でも自分から自由に行動していて、見た目だけでなく内面も大人っぽかった。もっと長い時間滞在したかった。
- コアラセンターでは、間近で動いているコアラを見られてラッキーだった。



Peter 教授



レクチャーのスライド



参加した授業



パフォーマンス(福笑いゲーム)



現地高校生とランチ



みんなで写真撮影



コアラ保護センター



【4日目】8/16 ・サザンクロス大学日-豪交流センターの説明(青山学院大学短期派遣職員佐藤様より)

- ・プレゼンテーション① ・キャンパスツアー(工学部実験棟見学)
- ・街頭調査

8:45 にサザンクロス大学に集合。キャンパス内にある日-豪交流センターの佐藤様から、日-豪交流センターについての説明とビデオ視聴を行った。その後、事務棟に移動し、残り6グループのプレゼンテーション①を行った。プレゼン終了後、サザンクロス大学の Ricardo Vasquez Padilla 博士の案内で、工学部各研究室の見学を行った。キャンパス内で昼食後、タクシーでリズモア市内に移動し、大型ショッピングモール、アートギャラリー周辺での街頭調査を行った。

〔生徒感想〕

- ・動機のプレゼンテーションをやってみて、改めて自分たちの計画の甘さを感じた。質問を受けてもまだ調べきれていなかったり、答えられなかった部分が多かったなので、これからグループで話し合っってプランを詰めていきたい。
- ・1人でプレゼンするのは、とてもとても緊張した。覚えているはずなのに紙ばかり見てしまったので、月曜にはしっかり伝えられるようにしたい。
- ・キャンパスツアーでは、普段は見られないような実験道具などを見られて楽しかった。
- ・リカルド氏のラテン系英語は比較的聞き取りやすかった。
- ・フィールドワークでは、最初に話しかけた人に断られてしまったり、警備の人に止められたりしたことで、はじめは声をかけるのをためらってしまった。後半からは積極的にできたので良かった。
- ・フィールドワークで初めは声をかけるのが怖かったが、少しずつ慣れて少し英語もしゃべりやすくなった。



日-豪交流センターの説明



プレゼンテーション①



Peter 教授によるアドバイス



Lab 見学



サザンクロス大学の芝生の上で



街頭調査



【5日目】8/17 ・ホストファミリーと過ごす

【6日目】8/18 ・ホストファミリーと過ごす

週末の2日間は、生徒は各ホストファミリーと思い思いに過ごした。Byron Bay やショッピングセンターに連れて行ってもらったり、夕食には日本食を振る舞った生徒もいたようである。

〔生徒感想〕

- 今日丸一日ホストファミリーと過ごして、ほとんど英語だけのコミュニケーションは初めてで大変だったけれど、今日一日でホストファミリーとたくさん会話することができた。日本の授業で英会話をする時は文法にも気をつけて色々と言語することができるのに、いざ本当に英語で日常会話をしようと思うと言葉が出てこなくて、自分の未熟さを感じた。
- ホストファミリーのファームを案内してもらったが、バナナ農園とはいえ植えられているのはバナナだけではなく、ライムやアボガド、サクランボの木もあって、しかも混ざって植えられていた。
- ショッピングモールのマップで、高校訪問に行った高校の生徒会長が働いていた。オーストラリアでは14歳から働けるそう。海外の子どもが日本の子どもより大人っぽいのは、こういうことも関係しているのかなって思った。
- 夜、星を見た。日本では考えられない数。スマホで撮ろうと思っても撮れなかった。ここに来ないと見られない風景って思ったら鳥肌が立った。
- 教会に行き、礼拝は初めてだったが、皆さんとても話すのが速く、ほぼ何も聞き取れなかった。お母さんたちはベビーカーを押して教会に来ており、そこまでして礼拝するんだと驚いた。
- 日本食作りではホストファミリーが美味しいと食べてくれたので安心した。ホームステイ最後の夜というのは少しさみしいが、とても充実していたと思う。



ホストファミリーと



【7日目】8/19 ・サザンクロス大学でのプレゼンテーション②

・ブリスベンへ

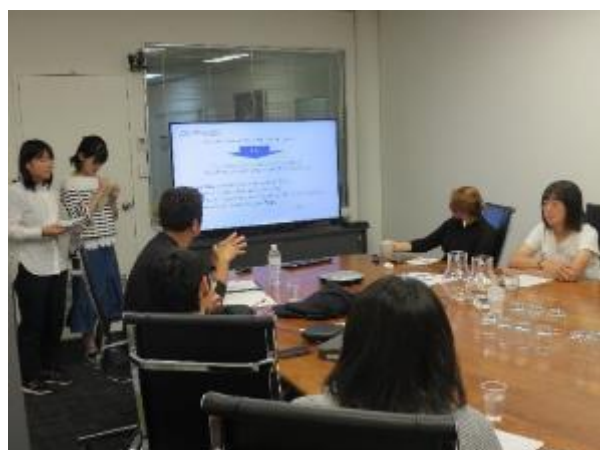
8:45 サザンクロス大学に集合。6日間お世話になったそれぞれのホストファミリーに別れの挨拶をして、プレゼンテーション②を全グループが行った。アドバイザーは、サザンクロス大学の Saffron と近畿大学准教授柏尾知明氏(研究員として短期派遣)にお願いした。プレゼンテーション①の時に比べ、格段に成長したプレゼンテーションであった。終了後、11:30 に専用車に乗車、途中、ゴールドコースト近くのファーストフード店でランチをとり、ブリスベンに向かう。15:00 にホテルにチェックイン。リズモアとは違ったオーストラリアの大都会で、最後のショッピングや観光を行った。

【生徒感想】

- ・プレゼンは前回よりもおもしろかった。それぞれのフィールドワークの結果におどろいたりして、新しい発見もあった。もっともっといろんな人の意見を聞いて、深めていきたいと思った。
- ・プレゼンの1回目よりも今日の2回目の方がみんな格段と仕上がっていてすごいなと思った。質問にもすぐに答えられたらいいと思うが、難しい……。
- ・プレゼンテーションの時にされた質問に対して、明らかにあたふたしてしまったところが良くなかったと思う。自分たちの案がまだ未熟だということは事前に分かっていたのだから、質問に面食らってしまったというのは自分自身で残念だった。
- ・プレゼンテーションは2回目なのもあって前回よりも深めた内容で自信をもって発表することができたと思う。しかし、フィールドワークからの新たな発見・課題や、それに関する具体的な解決策など、まだまだ曖昧な点が多いので、今回の経験を生かしてより具体的に内容を深めていけるように頑張りたい。
- ・リズモアとは違って、ブリスベンはとても都会で、人通りも多くとても楽しかったです。
- ・ブリスベンの街は都会のわりに人が少ない。街の夜景はどこを切り取ってもいい画になる。



ホストファミリーとお別れ



成果プレゼンテーション





活発な議論とアドバイス

【8日目】8/20 ・ブリスベン空港へ ・帰国 5:45 ・解散式 6:45

成田空港に到着。簡単な解散式を行い解散となる。

7 アンケート結果

(1) 自分が当初目標にしたことと、その目標への自己達成度(抜粋)

- ・積極的に英語で会話する 35%
- ・お豆腐メンタルを少しでも改善する 70%
- ・びびらずに話しかけに行く 60%
- ・積極的になって日本に帰る 50%
- ・たくさん英語を聞き、自分の意見を言う 70%
- ・簡単な今まで習った英語でたくさん会話して人とつながる 80%
- ・積極的にコミュニケーションをとり、新たな文化や考えを体感する 75%
- ・本場の英語、オーストラリアの文化を学ぶ 90%

(2) 印象に残っていること、学んだこと、自分が変容したと思うこと(抜粋)

- ・今回の研修を終えて最も印象に残っていることは他の班の人の積極性です。私は、研修で普段よりは頑張ったところがありましたが、まだ少し迷いがありました。しかし、他の班の人が異国の地でも、教授や街の人にとんどん話しかけている姿を見て、積極性はやはり環境よりもまず自分の意志が重要だと学びました。そういう人が身近にいと実感し刺激をもらいました。
- ・高校訪問で現地の高校生にとっても驚きました。とてもフレンドリーで同じ世代だと思えないほどしっかりしていて、私もこういう風な人になればいいなと思いました。こういう人たちが世界で活躍するんだろうなと思い、研究にも

役立ちそうだと感じました。

・「何とかなる」と思えるようになったこと。英語が完璧でなくても伝わる経験をした。最終日の夜ご飯をテイクアウトにしたり、それ用のフォークをもらったり、ホテルの Wi-Fi をつなぐために電話したり、この経験が自分の自信になった。

・オーストラリアのホームステイでは、ホストファザーが食事作りや掃除をしていて驚きました。日本では女性が家事をすることが一般的ですが、オーストラリアでは1人1人が家族の一員として家庭を良い状態にしようと心がけていることがわかりました。

・オーストラリアの高校で、実際に授業を見学してみたり、学校を案内してもらったこと。高校生活が楽しそうで生き生きとしていた。先生に積極的に質問したり、自分の意見を言ったりしていた。日本では、授業中にこのようなことをする機会は少ないが、だからこそ自分でその時間を作って、先生に質問することも大切だなと思った。

・先ず、自信を持てるようになった。行く前までは英語に自信がなくて、不安な気持ちもあったけど、「伝えたい」という気持ちがあれば、伝わることも多いことを学んだ。しかし、まだ勉強が足りないとも思った。ナチュラルな英語についていくのはたいへんで、でもできるようにになりたいと思ったので、勉強に対する新たな目標もできた。

・最も印象に残ったのは街頭調査です。私は一人で調査をしていたので、初めは緊張してなかなか声をかけられませんでした。でも勇気を出して聞いてみると、ほとんどの方が親切に答えてくれました。コミュニケーションもほぼ問題なくとれ、自分の中で大きな自信になりました。自分から行動することの大切さを実感しました。

・英語に慣れた。前までだったら、英語で話しかけたり聞いたりすることに抵抗があったが、分からないことがあったらどんどん話しかけてみようと思えるようになった。オーストラリアの方は日本の私たちにもすごく優しく、外国の方で困っている人がいたら、声をかけたいなと思った。

・オーストラリアの人たちは農業においても効率的で学校の授業時間等も短く、そのために時間と心に余裕がある人が多いように感じた。自分が時間に厳しくなれば、他人に対する余裕ができるのだと感じた。

・今回の研修でホームステイや高校訪問、フィールドワーク等を通して多くの人と会話をしたり、プレゼンテーションを行ったりしたことで、以前より積極的に他人に自分の考えを伝えることができるようになったと思う。それでも的外れ的な事を言ってしまうことを恐れて意見や質問などを述べるができなかった時もあったため、まだまだ改善し成長しなければならないと感じているので、これからの探究学習を通じて、より成長できるようにしたい。

・ホストファミリーの優しさ、面白さ。変に気を遣わず思っていることははっきり言うこと。来る前は英語を話すのが怖かったが、ホームステイ中は苦もなく英語が通じ自信が少しつき、英語を話すのが怖くなくなった。プレゼンの棒読み感が前よりなくなったと思う。